

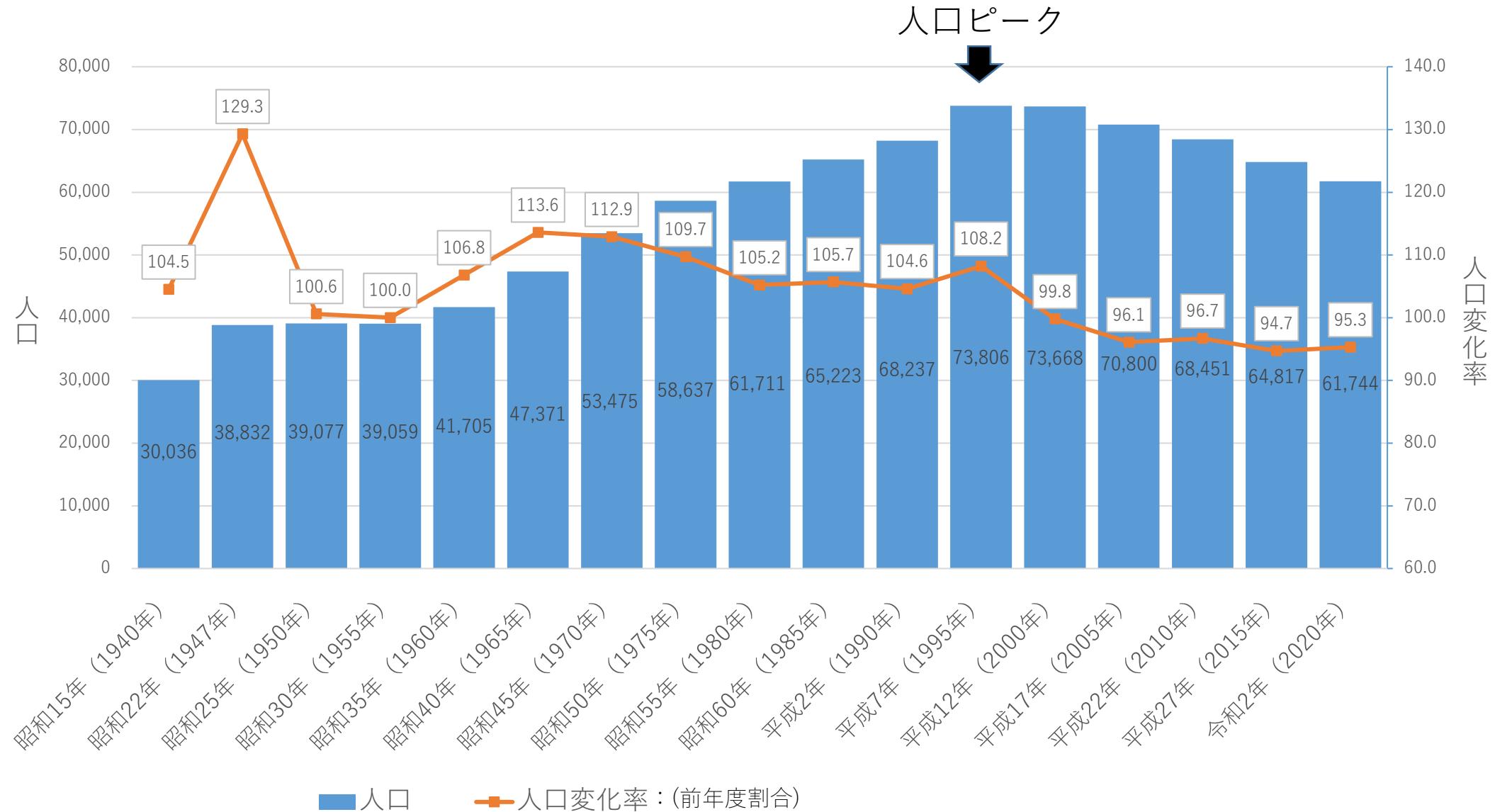
大和高田市の 人口動態について

令和7年8月

令和7年度 第1回 大和高田市まち・ひと・しごと創生会議
令和7年8月27日（水）14：00～

人口と人口変化率の推移

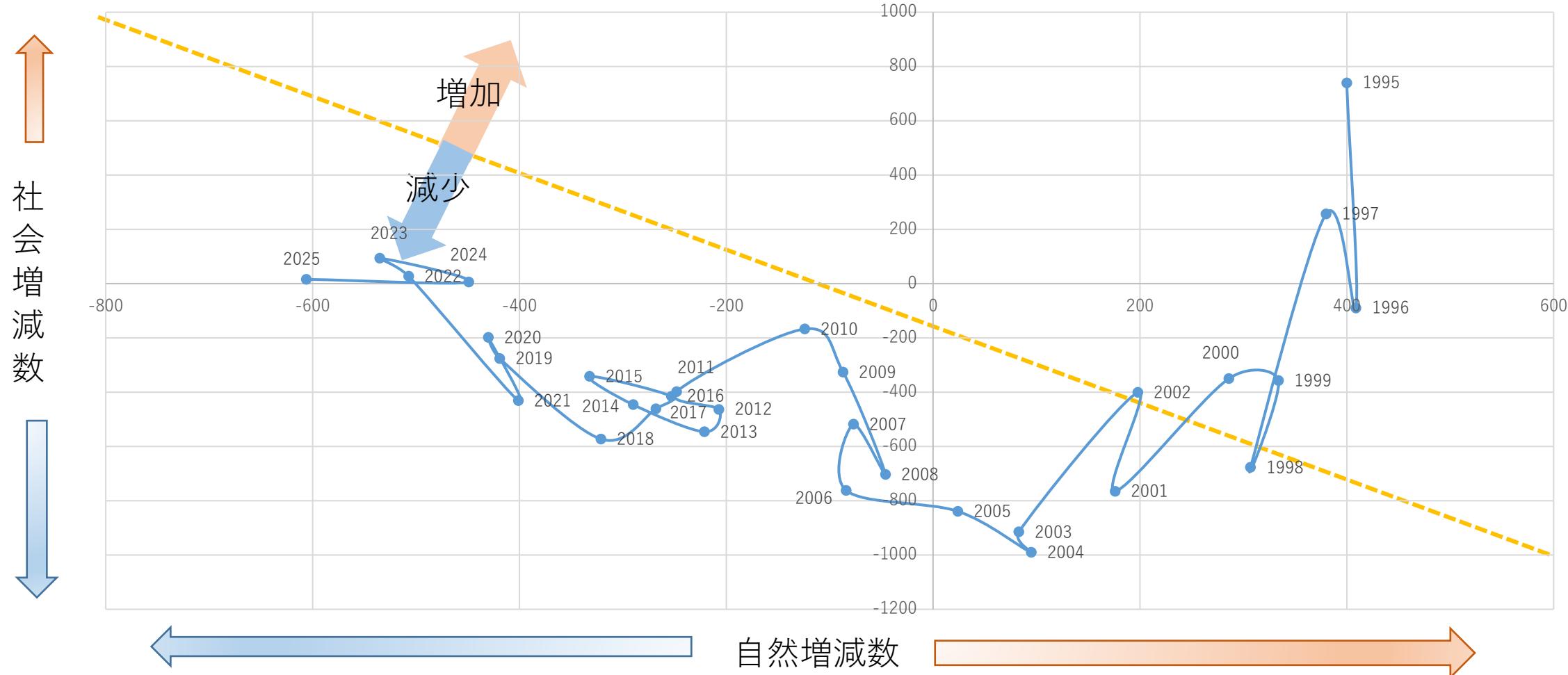
【出典】国勢調査



自然増減と社会増減の推移（散布図）

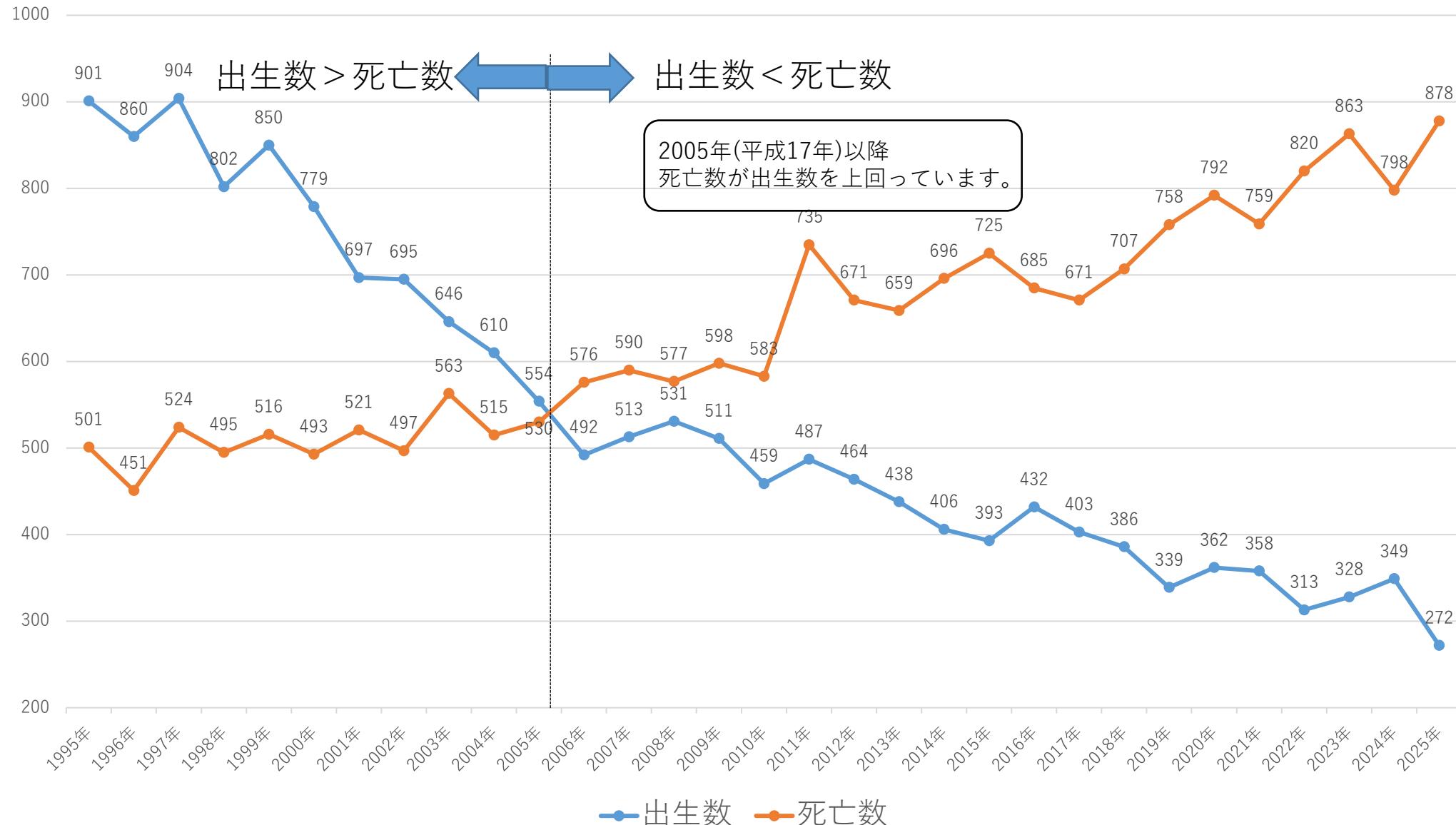
【出典】総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」

※ 各年1月1日時点



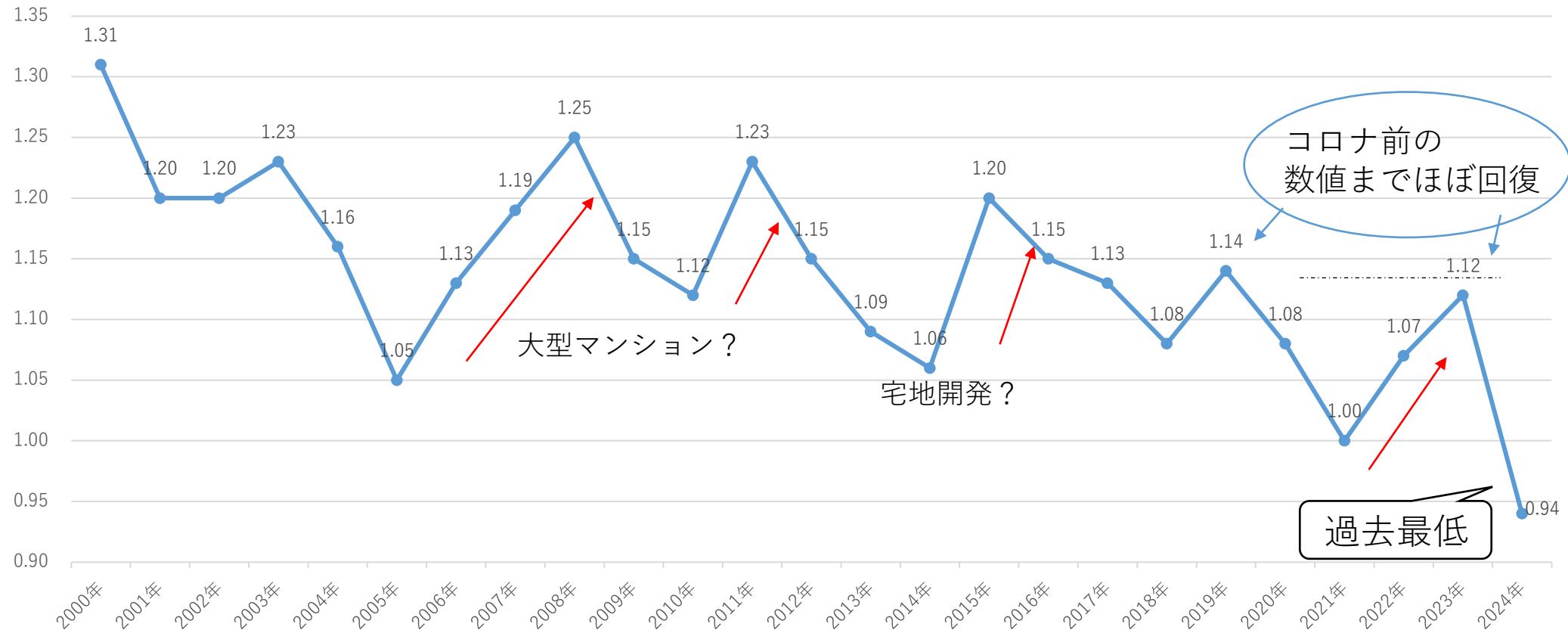
出生数・死亡数

【出典】総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」
※ 各年1月1日時点



合計特殊出生率

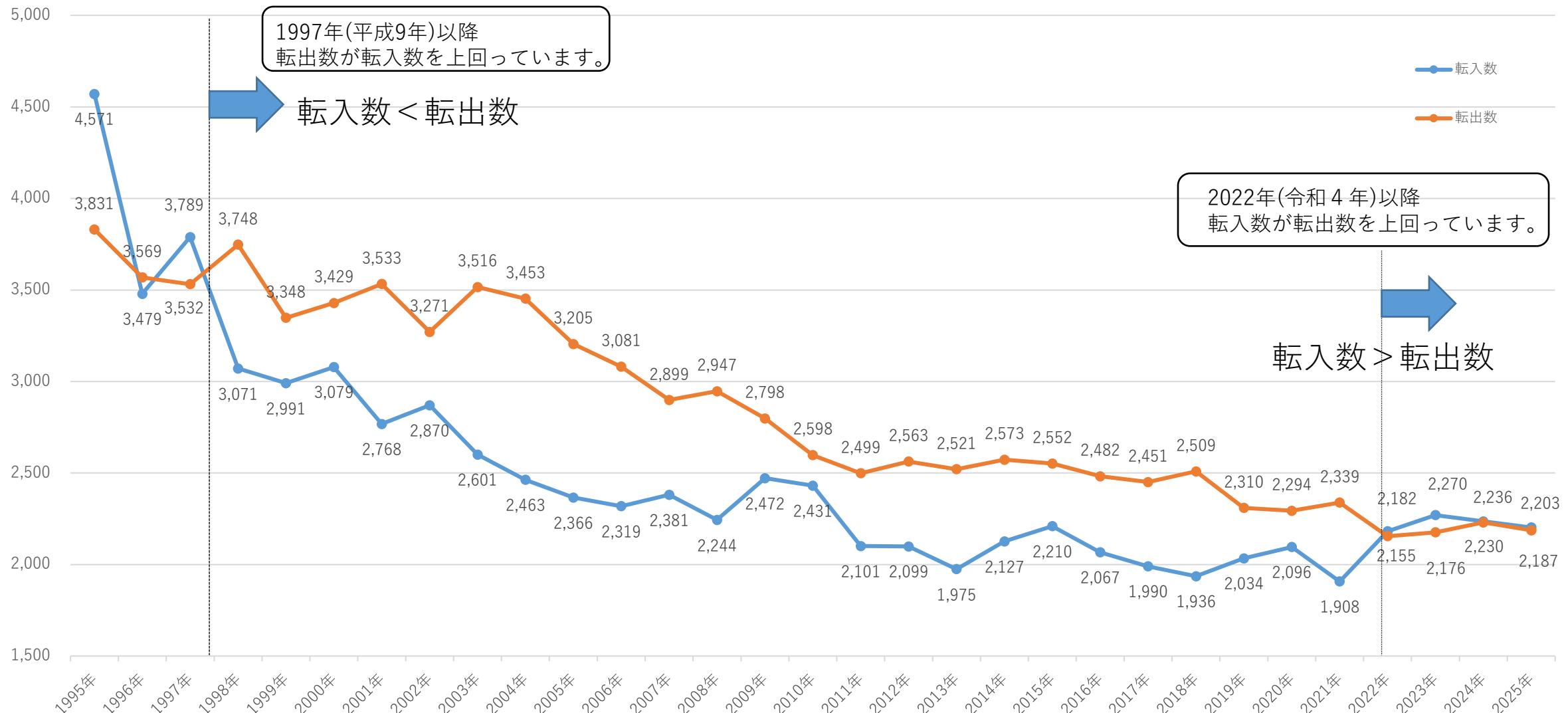
人口動態調査による母親の5歳階級別出生数を住民基本台帳（10月1日付）による15～49歳の5歳階級別の女性人口比で除した値の合計



転入数・転出数

【出典】総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」

※ 各年1月1日時点



From-to分析（定住人口）

【出典】地域経済分析システム（REASAS）2023年

転入者 内訳 〈上位5位〉

| | 転入元 | 転入者数 | 全体の割合 |
|---|-----|------|--------|
| 1 | 橿原市 | 229人 | 11.16% |
| 2 | 大阪市 | 183人 | 8.92% |
| 3 | 香芝市 | 153人 | 7.46% |
| 4 | 葛城市 | 104人 | 5.07% |
| 5 | 奈良市 | 75人 | 3.65% |

転出者 内訳 〈上位5位〉

| | 転出先 | 転出者数 | 全体の割合 |
|---|-----|------|--------|
| 1 | 大阪市 | 240人 | 11.40% |
| 2 | 橿原市 | 199人 | 9.45% |
| 3 | 葛城市 | 150人 | 7.13% |
| 4 | 香芝市 | 138人 | 6.56% |
| 5 | 奈良市 | 79人 | 3.75% |

転入超過数 内訳 〈上位5位〉

| | 転入元 | 転入者数-転出者数 | 全体の割合 |
|---|------|-----------|--------|
| 1 | 橿原市 | 30人 | 18.29% |
| 2 | 桜井市 | 29人 | 17.68% |
| 3 | 御所市 | 26人 | 15.85% |
| 4 | 香芝市 | 15人 | 9.15% |
| 5 | 田原本町 | 12人 | 7.32% |

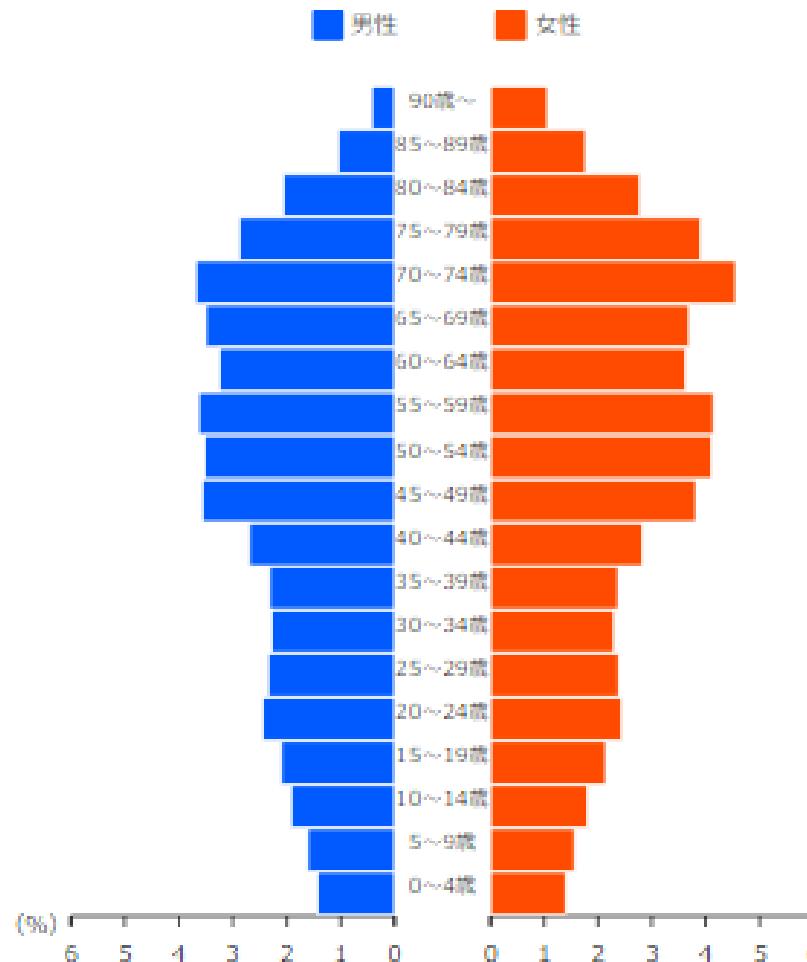
転出超過数 内訳 〈上位5位〉

| | 転出先 | 転入者数-転出者数 | 全体の割合 |
|---|------|-----------|--------|
| 1 | 大阪市 | 57人 | 26.27% |
| 2 | 葛城市 | 46人 | 21.20% |
| 3 | 広陵町 | 38人 | 17.51% |
| 4 | 天理市 | 11人 | 5.07% |
| 5 | 名古屋市 | 10人 | 4.61% |

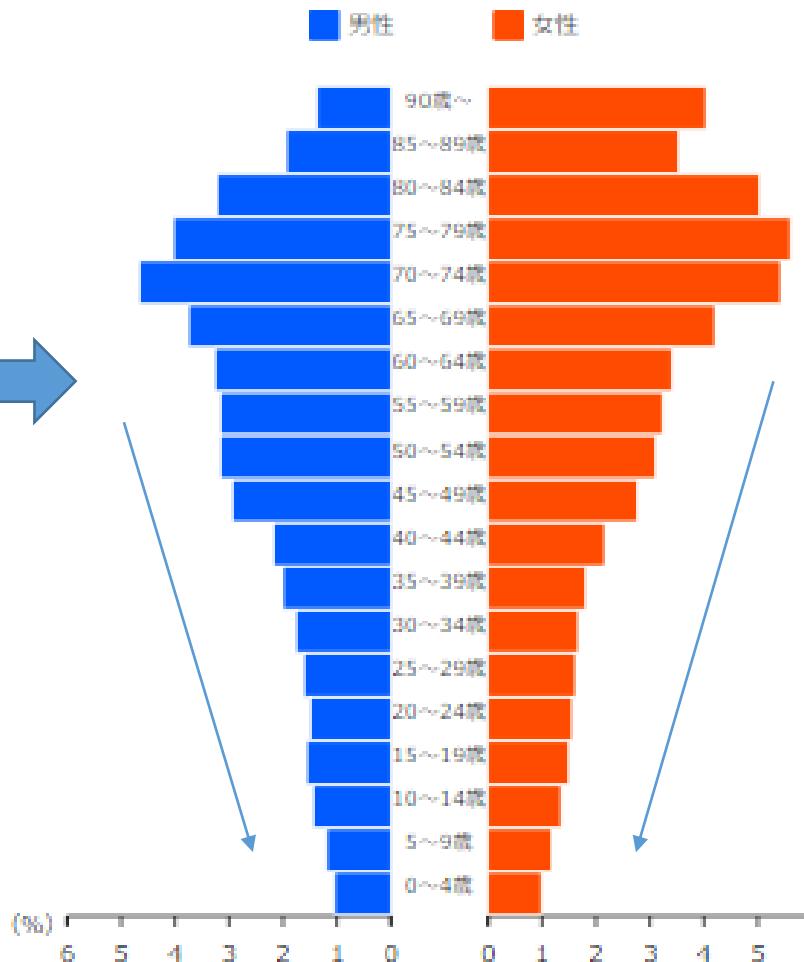
人口ピラミッド

【出典】地域経済分析システム（REASAS）

2020年

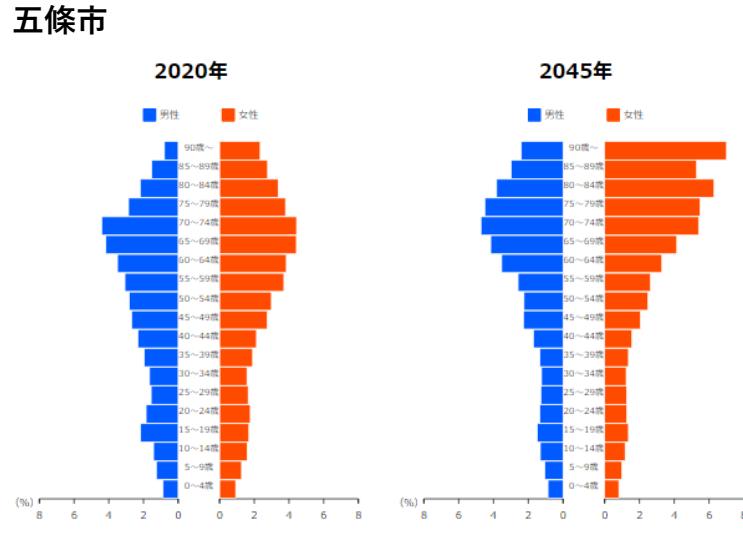


2045年

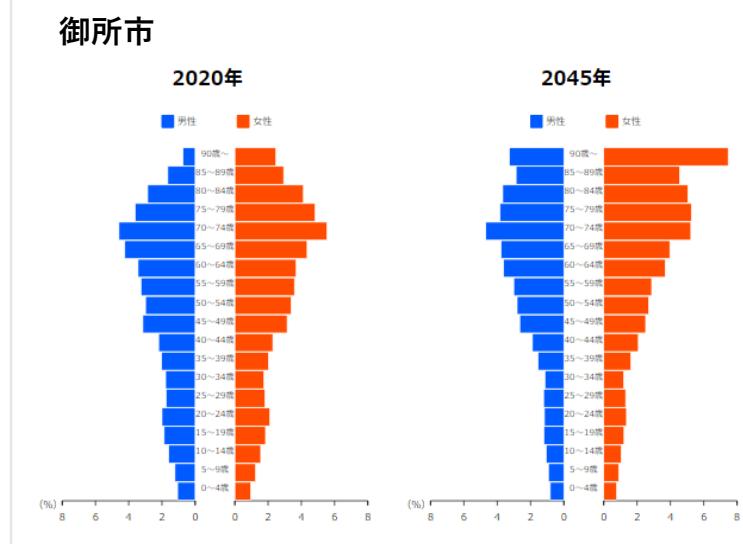


【参考】近隣市人口ピラミッド

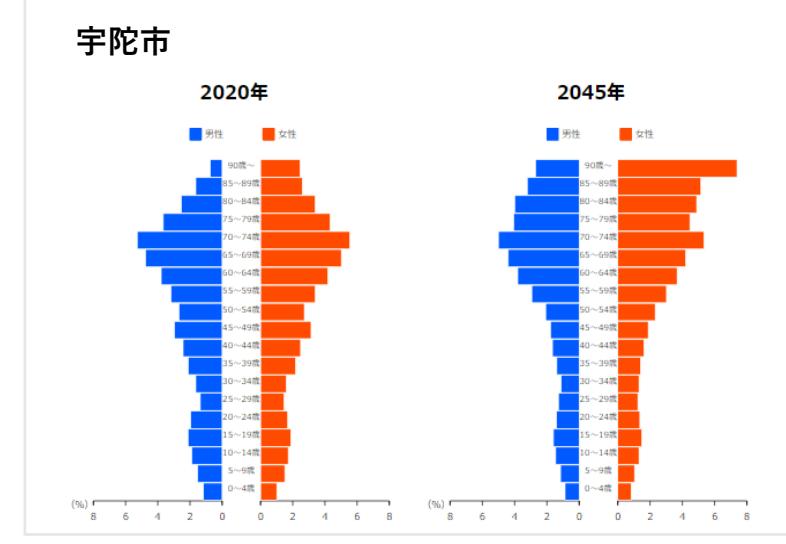
五條市



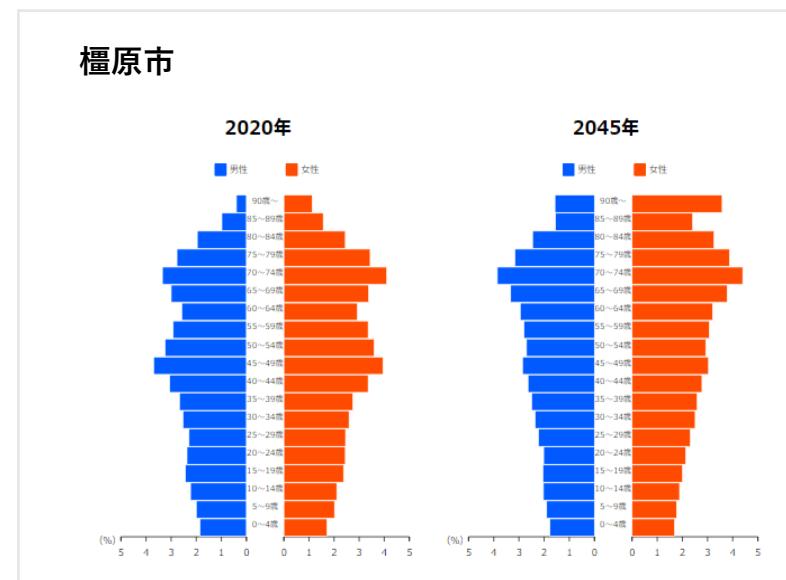
御所市



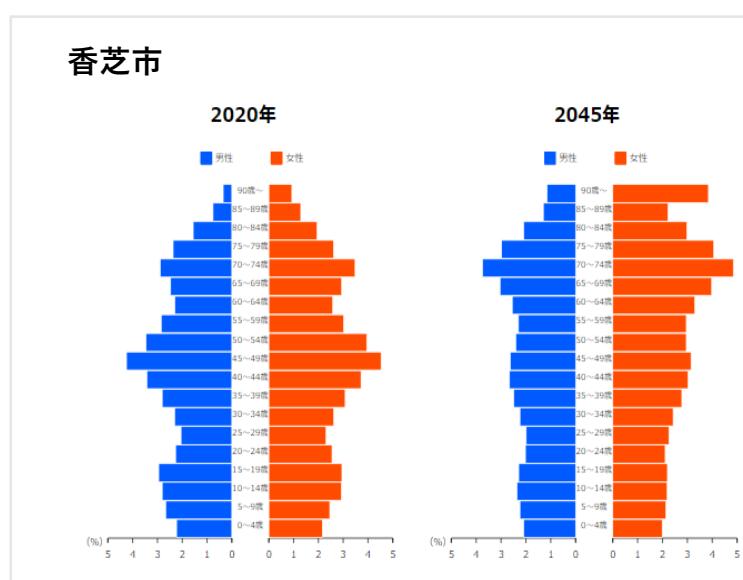
宇陀市



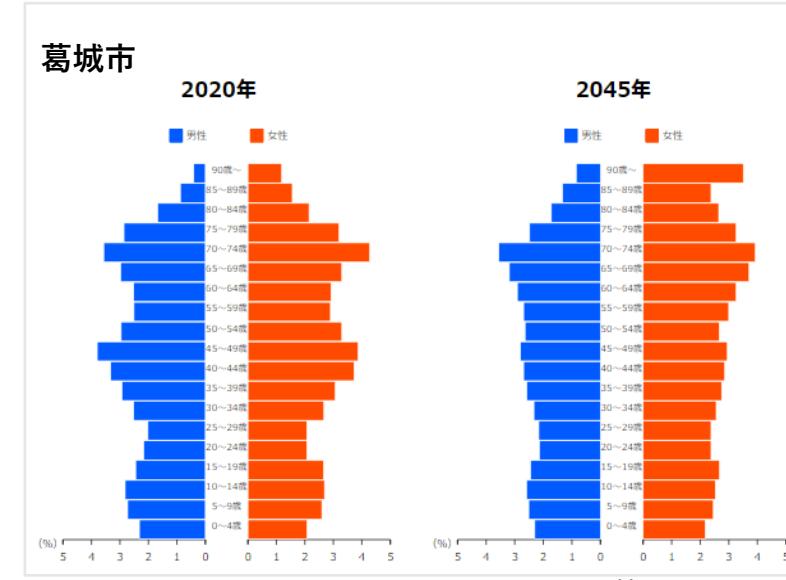
橿原市



香芝市



葛城市



○考察

- ・依然、自然減少率は高い。
→2025年1月1日時点の出生数（2024年1月～12月の出生数）は過去最低であった。
- ・4年連続で、社会動態増減数が増加している。
→外国人の人口が増加していることも一因であると考えられる。
- ・合計特殊出生率が2024（令和6年）に0.94と過去最低値となった。
→令和7年1月～6月の出生数と令和6年1月～6月の出生数を比較すると、令和7年は出生数が増加しているので、今後は若干、回復するのではないかと考えられる。